

幕張新都心モビリティコンソーシアム 第5回総会



開始までお待ちください。

- Zoomの設定のお願い
 - カメラオン
 - お名前:「会社名__お名前」

2023年3月10日

開催にあたっての留意事項

○以下、オンライン参加の方へ

- 名前の表示
 - 「貴社（団体）名_お名前」としてください。（例：千葉市_鈴木）
- 総会中のカメラは常時オン、マイクは発言時のみオンとしてください。
※通信環境により、総会途中でカメラをオフとしていただく場合があります。
- 発言時は『チャット』や『手を挙げる』機能を活用下さい。
- 録音・録画、画面の撮影は厳禁でお願いいたします。



○以下、現地参加の方へ

- 現地参加でZoomに入室する方につきましては、音声はミュートではなく、オーディオの切断をお願いいたします。

幕張新都心モビリティコンソーシアム 第5回総会



2023年3月10日

本日の次第

	次第	発表者	時間
14:30-	1 開会（事務局）		
14:32-	2 議題		
	(1) 各WGの2022年度検討報告について	-	30分
	①モビリティWG	(株)NTTドコモ千葉支店	
	②横連携WG	イオンモール(株)	
	(2) 2022年度活動報告・2023年度運営体制について	事務局（千葉市）	10分
	(3) 会則の改正について	事務局（千葉市）	5分
	(4) 2023年度千葉市事業について	事務局（千葉市）	10分
15:27	3 連絡事項	事務局（千葉市）	3分
15:30	閉会		

(1) 各WGの2022年度検討報告について

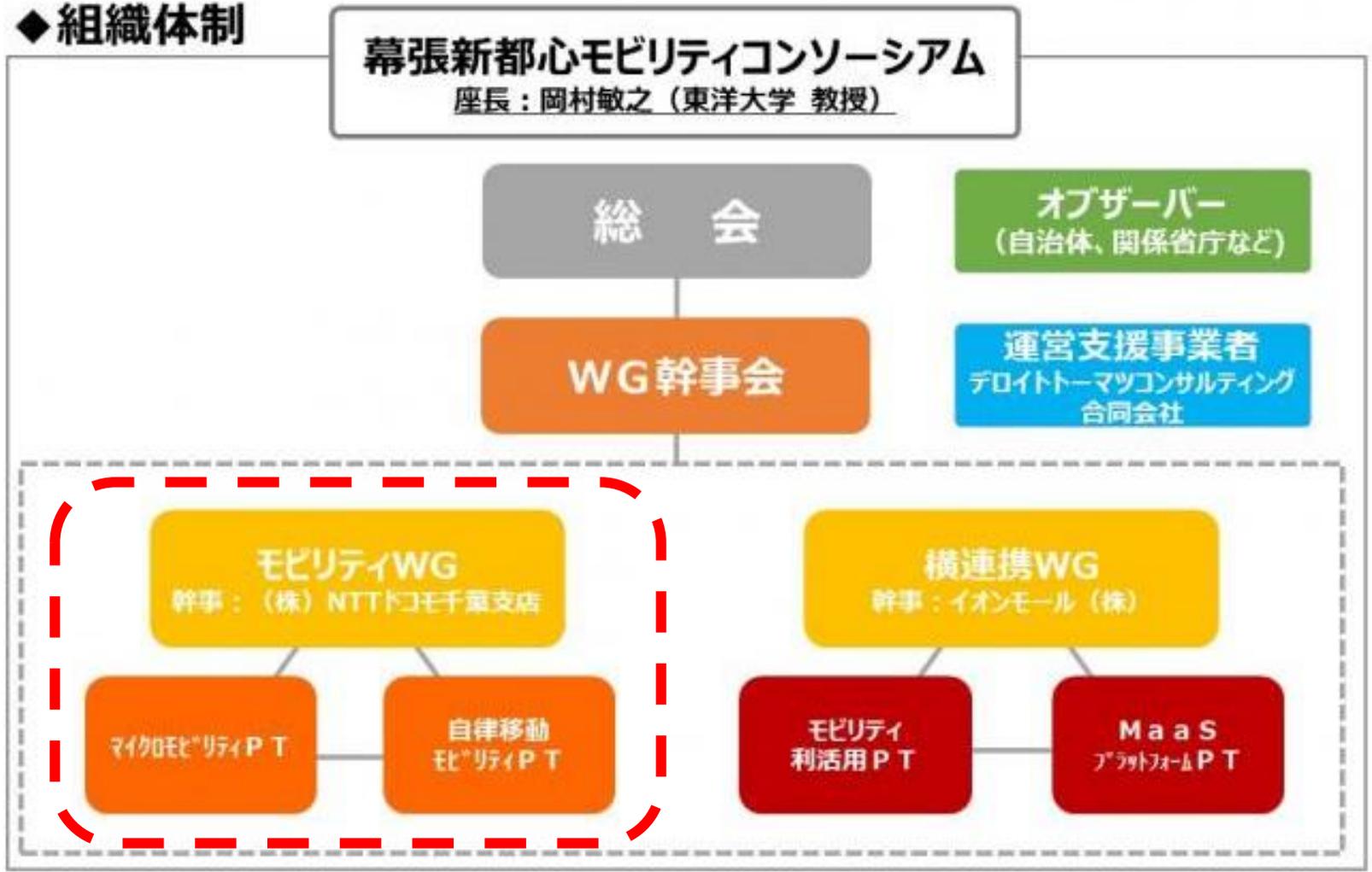
①モビリティWG

(株)NTTドコモ千葉支店

モビリティWG

モビリティWGについては、マイクロモビリティPT・自律移動モビリティPTにて、検討を実施

◆組織体制



マイクロモビリティPT

4回のPTを通しての検討の成果、来年度検討テーマ（案）は以下の通り

今年度PTにおける検討成果

マイクロモビリティ利用課題解決策

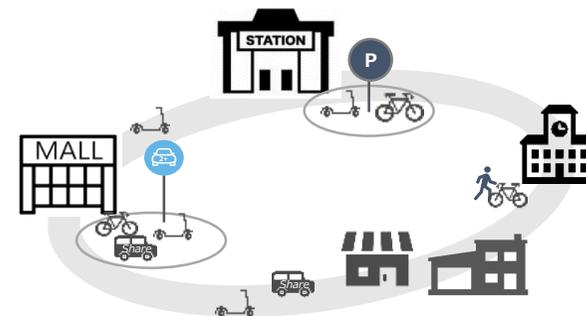
- 社会受容性向上を図るイベントの検討
 - 新型パーソナルモビリティに乗車し、体験イベント
 - 旅行会社と組んでマイクロモビリティを活用したイベントやツアー
- 認知拡大施策の検討
 - 各モビリティアプリ、モビリティステーション、駅前などでモビリティの使い方や利用シーンなどを紹介
 - 施設やUber等の宅配事業者で利用させ、日常に溶け込ませる

モビリティステーションの設置

- 立地
 - 人の往来が多い場所
 - 視認性の高い場所
- サイネージの設置
 - 安全の啓蒙
 - 周辺施設の情報提供
- 機能
 - 充電設備、フリーWi-Fiの設置
 - 付加機能・サービス連携の検討
- モビリティ
 - 自動車、自転車、電動キックボードの中から立地により台数や種類をアレンジして設置
- モビリティ連携
 - 継続利用者を増やすため、地域交通と連携（マンモス住居地区の住民利用を狙う）

来年度検討テーマ（案）

- 幕張新都心のエリア別需要
- モビステ運営の座組の検討
- 安全を啓蒙する方法の検討
- イベント実施内容・体制の検討 等



PT体制を踏まえ具体化

自律移動モビリティPT

4回のPTを通しての検討の成果、来年度検討テーマ（案）は以下の通り

今年度PTにおける検討成果

自動運転バス

- 自動運転バス実証の実施
- これまでの実証実験・コンソにおける課題を踏まえた検討
 - 採用すべき技術の検討
 - ・ 社会実装を見据え安全性などの向上のため、実装を行う事業者と連携し、ほか技術との組み合わせや専用レーンの導入検討が今後必要
 - 実証実験結果を基にした受容性向上施策の検討
 - ・ 周辺施設での広告掲出やイベント開催等による地域住民の理解の醸成を目指す
 - インフラ整備費用負担者の検討
 - ・ 初期導入・運用費用については、行政が負担すべき
 - 社会実装に向けたユースケース検討
 - ・ 域内施設や他モビリティと連携するなど、新たなサービス形態の検討が必要

サービスロボット

- これまでの実証実験・コンソにおける課題を踏まえた検討
 - 社会実装に向けたユースケース検討
 - ・ イベント施設利用者に対する飲食物の移動販売や買い物客をターゲットにした荷物運搬サービス等
 - 実証実験結果を基にした受容性向上施策の検討
 - ・ サービスロボットの走行を前提とした環境整備やルール作りを実施

来年度検討テーマ（案）

【自動運転車】

- 実証実験結果等を踏まえ、インフラ整備が必要な個所については、コストも意識した整備方法の検討
- 専用レーンについて「必要箇所」「実現性」についての検討
- 新たな付加価値や他サービス連携の検討（赤字補填策含む）

【サービスロボット】

- ニーズ調査手法の検討
 - 「誰が」「どこを対象に」「いつ」を整理・具体化し、実施まで持っていくことが必要

PT体制を踏まえ具体化

(1) 各WGの2022年度検討報告について

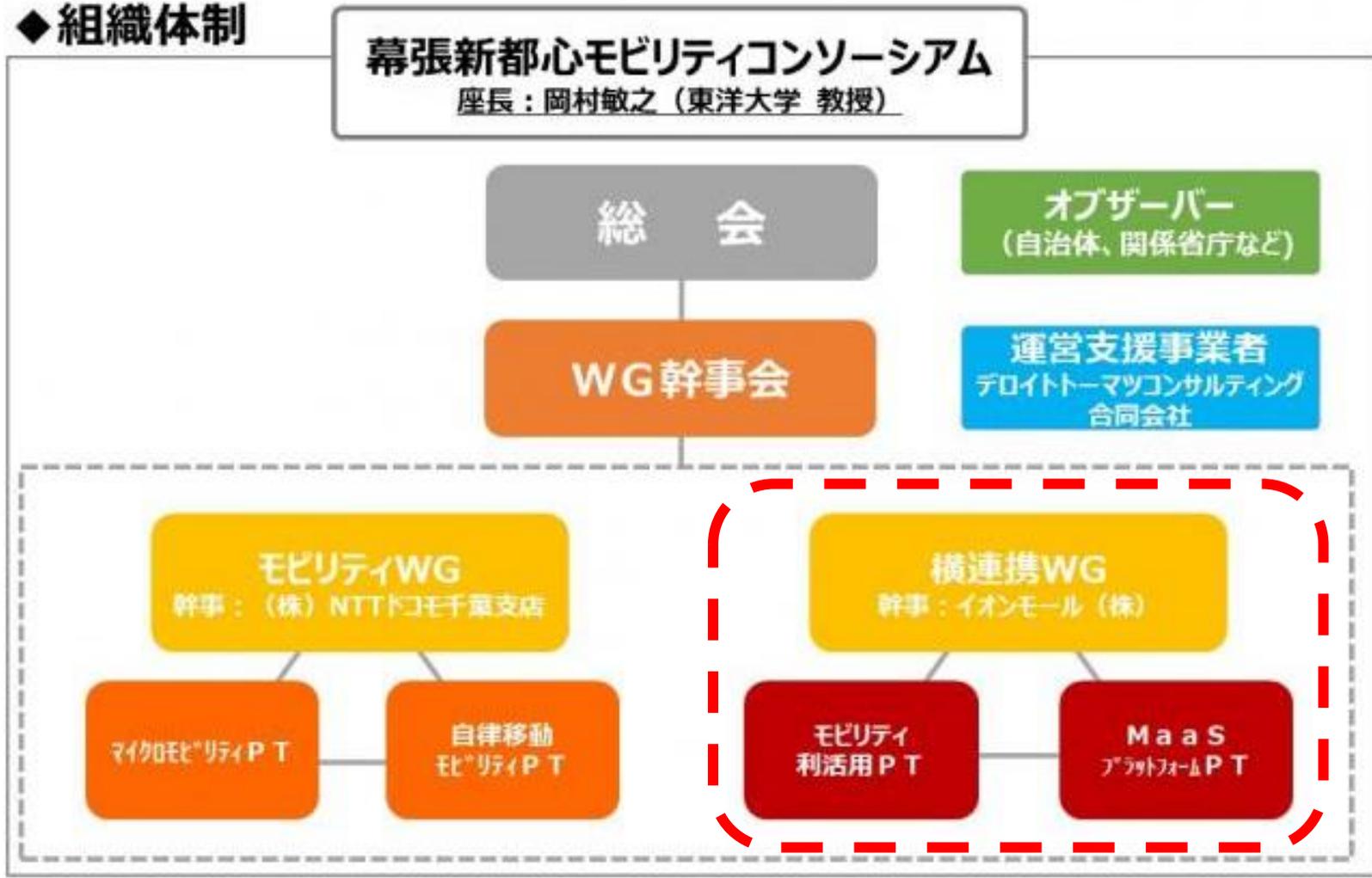
②横連携WG

イオンモール(株)

横連携WG

横連携WGについては、モビリティ利活用PT・MaaSプラットフォームPTにて、検討を実施

◆組織体制



モビリティ利活用PT

4回のPTを通しての検討の成果、来年度検討テーマ（案）は以下の通り

今年度PTにおける検討結果

回遊性に関する課題

- 幕張新都心の主な移動課題
 - 施設のスケールが大きく、館内の移動が困難
 - 適切なモビリティやパーキングの不足
 - (慢性的な) 道路の混雑・渋滞
 - 街全体のブランディング不足

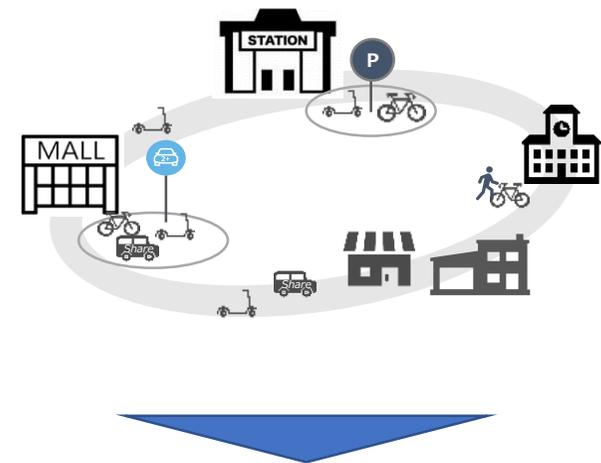
回遊性向上に関する検討

- 上記課題に対して回遊性向上施策案について検討
- 検討した施策案から実現性、インパクト等で選定し、会員にアンケートを実施した結果、施策Aに決定。施策Cも高得点
 - **【施策A】来訪者が訪れるイベント施設から周辺施設への回遊性向上**
 - ✓ 例：スタンプラリーの実施、MaaSアプリとの連携
 - **【施策C】家族などの複数利用者を想定したモビリティで各商業施設を結ぶ**
 - ✓ 例：乗合バスの運行により、回遊性・利便性を向上させマイカー利用の縮小による渋滞緩和に繋げる
- その他施策としては、様々なモビリティ・MaaSアプリを利用した回遊性向上施策が挙げられた
 - 例：深夜帯など飲酒の可能性を考えるとキックボードではなくバスを活用

※モビリティステーションについてはマイクロモビリティPTにてご報告

来年度検討テーマ（案）

- 今年度選定した**回遊性向上施策の実行**
- 乗合バス等の実施可否検討
- イベント実施内容・体制の検討 等



PT体制を踏まえ具体化

MaaSプラットフォームPT

4回のPTを通しての検討の成果、来年度検討テーマ（案）は以下の通り

今年度PTにおける検討結果

MaaS 実証実験

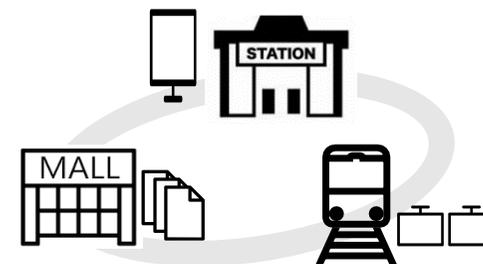
- 昨年度MaaS実証実験から引き継ぎ検討すべき課題
 - **認知獲得施策** ⇒今年度PTでの重点検討内容
 - 目的想起
 - モビリティ連携施策
- 今年度MaaS実証実験
 - **MaaSを活用した集客施策の検討**
 - ✓ データ連携等は集客効果次第で可能のため継続検討
 - レコメンド機能を搭載したモビリティ・地域情報を案内するMaaSの実証実験を実施

MaaS 認知獲得 施策

- MaaSの認知施策についてアイデア出しを実施
- 検討した認知施策案から実現性・インパクト等で選定し、会員にアンケートを実施した結果、施策Aに決定
- **【施策A】街全体で連携してMaaSをアナログに案内**
 - 内容
 - ✓ 他社と垣根を超えた連携・コラボを実施
 - ✓ アナログ＋デジタルで戦略的に発信
 - ✓ 駅やバスと接続
 - ✓ 広告効果を明らかにすることで連携企業を募る

来年度検討テーマ（案）

- MaaSの社会実装に合わせて「期間限定」で体制（PT）を構築し、広範囲にアナログに周知に取り組む
- 広告効果等を分析した上で、効果的・効率的な周知方法を選定し、「中長期的な体制」の構築も視野に入れる



PT体制を踏まえ具体化

(2) 2022年度活動報告・2023年度運営体制について

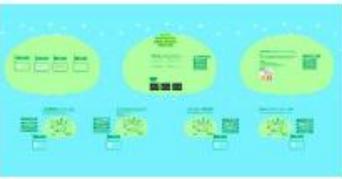
事務局（千葉市）

2022年度活動報告

コンソーシアム全体の活動報告については、本日報告のあった各WG検討報告等を取りまとめ、運営支援事業者とも調整を行い、2023年度当初に各会員の確認を受けた上で確定

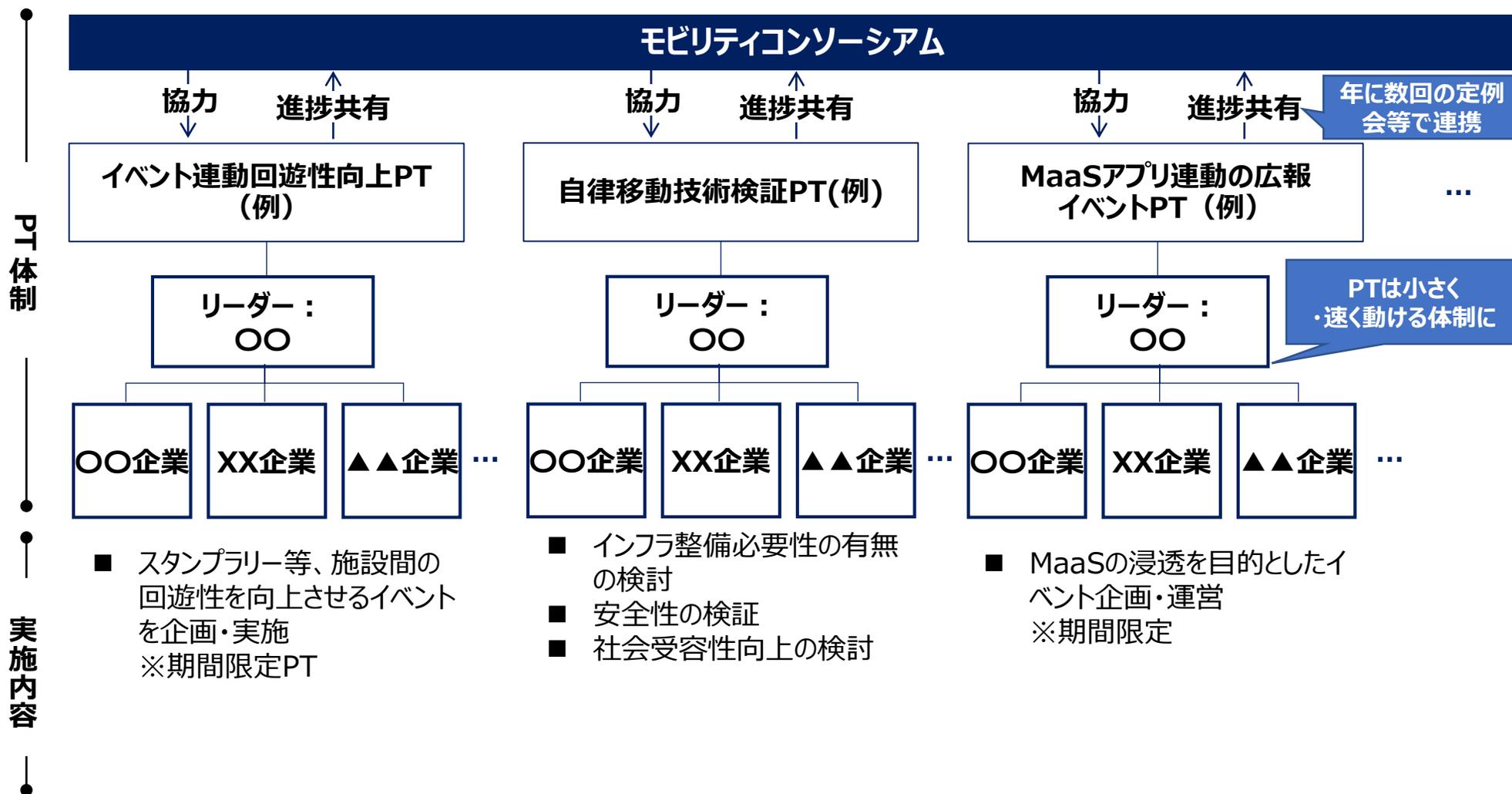
各施策

コンソーシアムでの議論活性化を目指し、今年度取り組んだ内容や評価、改善策は以下の通り

実施内容	
<p>活動のデザイン (グループワーク・パネル)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計16回 (4PT×4回) のグループワーク ■ 各WG幹事と事務局によるパネルディスカッション ■ Mentimeterを用いた匿名アンケート調査 ■ PT内で会員が取り組みたい内容を発表 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1056 678 1367 842">  <p>パネルディスカッション</p> </div> <div data-bbox="1398 678 1719 842">  <p>Mentimeter</p> </div> </div>
<p>ツールデザイン (Slack)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ PT外でのコミュニケーションツールとして、Slackを導入 ■ オンラインホワイトボードMiroの導入 ■ グラフィックレコーディングによる視覚的な議事録の作成 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1170 892 1263 1071">  <p>Slack</p> </div> <div data-bbox="1460 892 1719 1071">  <p>グラフィックレコーディング</p> </div> </div>
<p>コミュニティデザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ - <div style="text-align: center;">  <p>Miro</p> </div>

2023年度の体制案

2023年度は具体的事案に対して、実施主体（リーダー）を筆頭に、各PT2~5社程度で素早く動ける体制を実現。コンソ会員の皆様とは適宜連携。



2023年度の体制案

2023年度は、WGを廃止し、会員発意でのPTテーマ設定・立ち上げ、リーダー会員による主体的なPT運営を想定

2023年度コンソーシアムの体制について



会議体の位置づけ

- WG
 - 今年度は総会の下に設置していたWGを廃止
- PT
 - 各会員の知見や強みを生かした活動を展開しやすい体制に変更



PTの組成方法

- 各会員（千葉市含む）から提案されたテーマをもとに個々のPTを組成
 - PT立ち上げに関する手続きやPTの数は未定
- 原則としてPTリーダーとなる会員がメンバー集め、PTを組成
 - メンバー集めに関するご相談があれば事務局も協力可能



PTの運営方法

- 体制
 - リーダーを中心に推進
 - 事務局も必要に応じてPTに参加して状況を確認
 - 実証実験等において調整を要する各関係機関とも連携
- 実施期間
 - 短期間（例：2～3カ月）限定の実施も可能
- 情報共有
 - 総会や中間まとめ報告会で共有するなど、適宜コンソーシアムにフィードバック
 - PTテーマに係る他PTとは適宜情報共有を実施

2023年度の体制案

PTの細分化により意思決定のスピードが向上するなど、概ね体制案に合意する意見が多かった
また、PT間での連携や公共性のある団体の参加を求める意見も挙げられた

2023年度の体制について

体制案については概ね合意	賛成意見	<ul style="list-style-type: none"> ■ PTをテーマ毎に細分化することに賛成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ テーマごと（技術面・事業面など）の検討により、意思決定や議論のスピードが向上 ➢ 具体的な目的を達成することをゴールとし、参加団体を絞ることで意思決定や議論のスピードが向上 ➢ 企業側が議論したいテーマであれば具体的かつ責任ある発言が可能
	必要な工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ PT間での連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ PT間で連携し、コンソとしての結論をどう出すか検討が必要（スパン・体制など） ➢ 複数イベントの連携に向け、PT間の情報共有が必要 ■ ゴール設定 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事前にPT内でのゴールの共通認識が必要 ■ 参加目的に合わせた体制構築 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各企業のスタンスや目的に合わせたPT体制が必要 ■ 公共性の高い団体の参加 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自社プロジェクト中心となる懸念から、テーマによっては公共性・中立性のある方に音頭を取ってほしい ➢ 利益が出る事業・PTだけになる可能性があるため、公共性の高い団体が参加すべき ■ PTメンバーの集め方 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事務局側がPTに必要なプレイヤーを示すことで、各企業がPTでの検討内容を認識したうえで参加可能 ■ 外部意見の取入れ <ul style="list-style-type: none"> ➢ すでに幕張新都心で仕掛けを行っている団体と連携することで施策を具体化

2023年度のテーマ案

各PTで出た、テーマ案は以下の通り

2023年度のテーマ案	
テーマ案	<p>自律移動モビリティ PT</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 実証実験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 実証実験の結果に基づき、歩行者・駐停車の回避に関する検討 ➢ 千葉市の目指すサービスロボット実証実験に関する検討 ■ その他テーマ <ul style="list-style-type: none"> ➢ マイクロモビリティへの活用なども含めたターゲットラインペイントに関する検討 ➢ 駅商業施設の活用に関する検討
	<p>マイクロモビリティ PT</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ モビステ設置 <ul style="list-style-type: none"> ➢ モビリティステーションの建設や機体投入に関する具体的な場所の選定 ■ その他テーマ <ul style="list-style-type: none"> ➢ イベント企画・運用に関する検討 ➢ 自律走行などを含む技術検証 ➢ データ活用や防災時の活用などに関する検討
	<p>モビリティ利活用 PT</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 施策A（来訪者が訪れるイベント施設から周辺施設への回遊性向上）関連 <ul style="list-style-type: none"> ➢ メッセ来場者の属性はイベント種類・規模により異なるので実行のイベント・目的に絞り、スモールスタートでの実施を検討 ➢ イベント開催時に駅の混雑予測の発表による周辺施設への立ち寄りをすることを検討 ■ 新駅開業に合わせた回遊性向上施策 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新駅開業のイベントに合せた周辺施設とモビリティを一体的につなぐ仕組みを検討（インセンティブ付与）
	<p>MaaSプラットフォームPT</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 参加企業のインセンティブ設計 <ul style="list-style-type: none"> ➢ MaaS参加で得られる企業インセンティブの可視化方法に関する検討 ■ 新駅開業に合わせたイベント企画・実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各社が行う新駅開業に合わせたプロモーションやイベントを、コンソで連携して開催することを検討 ➢ プロモーションに関する費用負担について検討（各社按分など）

(3) 会則の改正について

事務局（千葉市）

幕張新都心モビリティコンソーシアム運営会則新旧対照表

旧	新
<p>(ワーキンググループ等)</p> <p>第10条 本コンソーシアムは、その目的を達成するために必要な取組みを検討・推進するための<u>ワーキンググループ</u>を設置することができる。</p> <p>2 <u>ワーキンググループ</u>は、それらの目的に対して意欲ある会員から構成される。</p> <p>3 <u>ワーキンググループ</u>に幹事を置き、<u>幹事</u>により構成される幹事会を必要に応じて開催し、各<u>ワーキンググループ</u>間の進捗共有及び連携を検討するものとする。</p> <p>4 <u>幹事</u>の任期は、原則として<u>1年</u>とし、<u>再任を妨げない</u>。</p> <p style="text-align: center;">(追加)</p>	<p>(プロジェクトチーム等)</p> <p>第10条 本コンソーシアムは、その目的を達成するために必要な取組みを検討・推進するための<u>プロジェクトチーム</u>を設置することができる。</p> <p>2 <u>プロジェクトチーム</u>は、それらの目的に対して意欲ある会員から構成される。</p> <p>3 <u>プロジェクトチーム</u>に<u>リーダー</u>を置き、<u>リーダー</u>により構成される幹事会を必要に応じて開催し、各<u>プロジェクトチーム</u>間の進捗共有及び連携を検討するものとする。</p> <p>4 <u>リーダー</u>の任期は、原則としてその目的を達成するまでの期間とし、<u>プロジェクトチーム</u>内で協議が調った場合は、<u>リーダーの変更を妨げないものとする</u>。</p> <p>5 <u>リーダー</u>は、<u>プロジェクトチーム</u>の目的が終了したと認めた場合、又はその目的を達成することが困難と認めた場合は、<u>プロジェクトチームの解散を命ずるものとする</u>。なお、<u>リーダー</u>がやむを得ない事情により<u>プロジェクトチーム</u>の解散を命ずることができない場合は、<u>座長の判断により解散を命ずることができる</u>。</p>
<p>(プロジェクト参加者の募集)</p> <p>第11条 会員は、<u>会員主導のプロジェクトの実施に当たり、当該プロジェクトへ参画する他の会員の募集並びに当該プロジェクトに対する意見及び助言を求めることができる</u>。</p> <p>2 <u>前項の募集を依頼した会員は、当該プロジェクトへの参画を希望する他の会員の参加を不当に拒んではない</u>。</p>	<p style="text-align: center;">(削除)</p>
<p>第12条～第17条 略</p>	<p>第11条～第16条 略</p>
<p style="text-align: center;">(追加)</p>	<p style="text-align: center;">附則</p> <p>本会則は、令和5年3月10日より施行する。</p>

(4) 2023年度千葉市事業について

事務局（千葉市）

2023年度事業

千葉市が行う事業は以下の通り

事業・概要

**パーソナルモビリティ
社会実装サポート事業**
(補助率 2/3、
補助上限 5,000千円)

- パーソナルモビリティを活用した都市の回遊性向上、ラストワンマイルの課題解決、観光コンテンツ創出、外出困難者支援など、地域の交通課題解決等に寄与するサービスを提供する事業
- パーソナルモビリティとA I・I o T技術、自動運転技術等の未来技術を組み合わせたサービスを提供するための実証を行う事業

**自動運転車社会
実装サポート事業**
(補助率 2/3、
補助上限 21,000千円)

- 自動運転車を活用した都市の回遊性向上、観光コンテンツ創出、外出困難者支援など、地域の交通課題解決等に寄与するサービスを提供する事業
- 自動運転車とA I・I o T技術等の未来技術を組み合わせたサービスを提供するための実証を行う事業

**サービスロボット
社会実装サポート事業**
(補助率 2/3、
補助上限 6,000千円)

- 自動走行ロボットを活用した省人化や効率化による地域の課題解決等に寄与するサービス（配送、警備、移動販売等）を提供する事業
- 自動走行ロボットとA I・I o T技術等の未来技術を組み合わせたサービスを提供するための実証を行う事業

**幕張新都心版MaaS
社会実装サポート事業**
(補助率 2/3、
補助上限 20,000千円)

- 都市の回遊性向上や賑わい創出に資する新たなモビリティサービスと既存公共交通及び他分野サービス（商業、宿泊、観光、物流、医療、行政サービス等）を一体的に提供するM a a Sを提供するための実証を行う事業

**デジタルツインを活用した
自動運転車サービス導入支援**
(180,000千円)

- 現実世界から収集したデータをもとに、幕張新都心をコンピューター上の仮想空間に再現し、仮想空間上で自動運転技術の検証を行う事業

3 連絡事項

事務局（千葉市）

連絡事項

事務局からのアナウンスは以下の通り

1. 資料の取扱い

- 本日の資料はすべて公表とさせていただきます。

2. 議事要旨の確認

- 事務局にて案を作成し、各会員様の確認を経て、千葉市ホームページにて公表させていただきます。

3. 2023年度のPT募集

- 詳細につきましては、近日中にお知らせいたします。

4. 交流会

- 総会終了後、現地会場にて開催いたします。

「学」
について

幕張新都心モビリティコンソーシアム 第5回総会

ありがとうございました！

MAKUHARI
NEW URBAN
CENTER

以上